

令和4年2月3日

## 第24回オリンピック冬季競技大会（2022／北京） カーリング競技ガイド<sup>1</sup>

公益社団法人 日本カーリング協会

### 1. 競技・種目の説明

#### (1) 競技方法、競技（種目）の規則、競技用具、競技（種目）の取材ポイント

男子／女子／ミックスダブルスとも1グループの総当たりの予選を行い、その上位4チームによる決勝トーナメントを行う。参加チームはいずれも10チームで、決勝トーナメントは予選1位と4位、2位と3位が対戦する準決勝とそれぞれの勝者が対戦する決勝、敗者が対戦する3位決定戦からなる。競技規則は通常の国際大会において適用されるものに準じており、オリンピック独自に適用される規則はない。



オリンピック最終予選時のカーリングの競技会場（WCF @ Steve Seixeiro）

各チームには8個（ミックスダブルスは5個）のストーンが与えられ、それをハウスとよばれる円形の領域内を目指して交互に投球（デリバリー）を行う。両チームがストーンを全て投げ終わった後にハウスの中心に最も近い位置にストーンを置いたチームに得点権が与えられる。得点は、ハウスの中心に最も近い相手のストーンよりも内側にあるストーンの数で決まる。どちらのストーンがハウスの中心に近いかを目測で判断することが困難な場合には、審判が専用の計測器を用いて計測することがある。この1回の勝負を「エンド」と呼び、男子／女子では10回（10エンド）、ミックスダブルスでは8回（8エンド）繰り返して勝負を競う。試合中のチームにはシンキングタイムと呼ばれる持ち時間（男子／女子は38分、ミックスダブルスは22分）が与えられ、持ち時間が0になるとその試合は敗れる。シンキングタイムに加えチームにはコーチ

<sup>1</sup> 本文書は（公財）日本オリンピック委員会が編集した「第24回オリンピック冬季競技大会（2022／北京）JOCメディアガイド」の寄稿原稿である。他競技を含む大会全体のガイドについては上記メディアガイドを参照されたい。

と氷上で作戦を協議するための時間であるタイムアウトが 1 回与えられる。タイムアウトをどのように有効に使うかも作戦の一つである。5 エンド（ミックスダブルスは 4 エンド）終了時には 5 分間の休憩（ハーフタイム）、それ以外のエンド間には 1 分間の休憩が与えられる。得点差が算術的に覆すことが不可能な場合、もしくは可能であっても双方の実力を考慮すると覆すことが困難な場合には、試合の途中で相手の勝ちを認め試合を終了（コンシード）することがある。



計測の様子（WCF @ Celine Stucki）

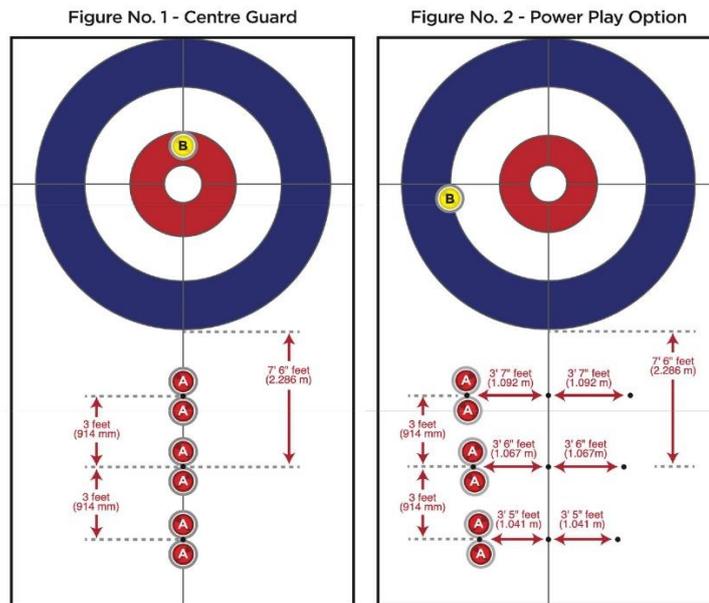
予選の順位は勝ち数によって決まり、勝ち数が並んだ場合は当該チーム間の対戦成績、3 チーム以上が並んだ場合は当該チーム間の勝敗数もしくはドローストーンチャレンジ（先攻・後攻を決めるために予選試合の開始前に行われるラストストーンドロウの平均値）の結果を基に決定する。予選では使用するストーンの色があらかじめ決められており、それに合わせて明暗 2 色のユニフォームのいずれかを着用する。決勝トーナメントでは予選上位のチームに先攻・後攻とストーンの色を選択権が与えられる。

カーリング専用の用具はシューズとブラシである。シューズには利き足と逆側にプラスチックもしくは金属の板が取り付けられており、それを利用して氷上を滑りながら投球を行う。ブラシは進行するストーンの前の氷面を擦る（スウィープする）ことで、ストーンの移動距離を延ばすためおよびストーンの曲がり幅を制御するために使用される。氷面に接する部分（パッド）の素材は指定されており、指定外の素材のパッドを使用することは認められない。

カーリングは後攻のチームが最後の 1 投を投球する権利を持つため、後攻は 2 点以上の得点を挙げることを狙う。点を取ったチームは次のエンドは先攻になるため、先攻はあえて 1 点を相手に取らせ、次のエンドで有利な後攻を持つことを目指す。後攻の際に 1 点しかとることができない場合には、ハウス内にある全てのストーンをはじき出し（テイクアウト）、そのエンドを 0 点（ブランク）で終わり次のエンドも後攻を持って複数得点の機会を伺う場合がある。得点を積極的に取りに行く場合と、最小の得失点でエンドの終了を目指す場合とでは序盤のストーンの配置が異なってくる。点を取りに行く場合には先攻・後攻いずれもハウスの前にストーンを配置し、その後ろに隠れるようなハウスの中にストーンを貯めて得点を挙げることを目指す。一方最小の得失点でエンドの終了を目指す場合は、初めからハウスの中にストーンを置き、相手はそのストーンをハウスからはじき出す（テイクアウトする）よう誘いをかけ、最終的にどち

らかが 1 点を取るもしくは 0 点（ブランク）でエンドを終わることを狙う。試合は最終の 10 エンドを後攻で迎えることができるよう組み立てを考える。そのため後半（6 エンド以降）の偶数エンド、特に 8 エンド目に後攻を取れるかが一つの見どころになる。8 エンド目に後攻で複数点が取れば 9 エンド目の相手の得点を 1 点に抑え、最終 10 エンドを有利な後攻でさらに得点を重ねることが期待できる。

ミックスダブルスは初めから氷上に互いのストーンが 1 つずつ配置（置き石という）されているので、ストーン配置の展開は 4 人で競技する男子／女子とは異なる。先攻・後攻ともハウスの中心付近にストーンを貯め、複数得点を挙げるもしくは後攻の相手に 1 点取らせることを目指す。ハウスの中心付近にストーンが集まるため 3 点以上の得点が挙がることも多く、先攻であっても複数得点の機会を得ることが男子／女子の場合よりも容易である。競技中はドロショットと呼ばれるハウス内にストーンを置くショットが選択されることが多く、ハウス内の相手ストーンが邪魔な場合はそれをはじき出すテイクアウトよりもハウス後方に下げるショットが多用される。与えられるストーンの数男子／女子の場合よりも少ないため、戦況が不利な場合には早めに作戦を切り替えて失点を防ぐ必要がある。後攻には試合中 1 度だけエンド開始時の置き石の配置を通常時と異なるものに変更する（パワープレーという）権利が与えられる。パワープレー時の置き石の配置は後攻にとって得点しやすい配置となっているため、逆転を狙う場合や点差を維持して逃げ切りを図る場合にパワープレーが選択される。



ミックスダブルカーリングにおける置き石の配置: (左) 通常の場合 (右) パワープレーの場合 (競技規則より抜粋)。A のストーンは氷面状態を基にいずれかの位置に決められる。

4 人制男子／女子、ミックスダブルスとも、選手間の意思疎通と効率的な情報伝達が勝利を得るための重要な要素である。男子／女子の場合、フロントエンドと呼ばれるリード・セカンドの選手は氷面の状況とその変化をいち早く把握し、投球する選手および作戦立案を担当するスキップに伝える。どれだけ投球技術があっても氷面状態の把握に齟齬が生じると、スキップは作戦の選択に苦労することになる。スキップは投球されたストーンの軌跡を観察・予測しながらスウィープする選手にスウィープの有無、そ

の強弱、スウィープの方向を指示する。わずかな判断・指示・動作のタイミングのずれがストーンの軌跡に大きな影響を及ぼすので、スキップはもちろん選手全員がストーンの挙動に注意を払う必要がある。ミックスダブルスの場合これを 2 人の選手で行わなくてはならない。選手が少ない分合意形成は比較的容易だが、齟齬が生じた場合の競技に対する影響は大きくなり、また選手 1 人あたりがこなす役割も多くなる。

## (2) 近年のルール改正、オリンピックと世界選手権等との違いについて

カーリングの競技規則は毎年 9 月に開催される世界カーリング連盟の年次総会で改正が議論されている。前回の 2018 平昌冬季オリンピック以降に行われた改正事項のうち、もっとも大きな改正事項は男子/女子のフリーガードゾーンルール（ホッグラインからハウスまでの一定の領域内に置かれたストーンの扱いを定めたルール）に関するものである。それまでリードの投球（各チーム 2 投）が終了するまでフリーガードゾーンに置かれた相手ストーンをフリーガードゾーンからプレーエリア外へ出すことができなかったが、2018 年 10 月の改正で先攻のセカンドの 1 投目が終了するまでプレーエリア外へ出すことができなくなることに変更された。この改正により後攻のチームの置いたガードストーンがプレーエリアに残りやすくなり、点差があっても試合終盤で後攻を持ったチームが同点に追いつくまたは逆転する傾向が高くなった。

先に記載の通り、オリンピックと世界選手権とで適用される規則に違いはない。世界選手権は 13 チームが参加するためプレーオフは 6 チームで争われるが、オリンピックは 10 チームの参加となるためプレーオフは 4 チームで争われる。参加チーム数が世界選手権よりも少ないため、予選の試合毎の勝敗結果がプレーオフ進出により大きく影響する。

## (3) レギュレーションの原典や競技理解のために参考となる動画へのリンク等

以下の URL に公開されている（公社）日本カーリング協会競技規則を参照されたい。

- P.01-34

<http://www.curling.or.jp/committee/competition/rule-2021-11-1-34.pdf>

- P.35-58

<http://www.curling.or.jp/committee/competition/rule-2021-11-1-34.pdf>

- P.59-76

<http://www.curling.or.jp/committee/competition/rule-2021-11-59-76.pdf>

## 2. 今大会のみどころ

### (1) 今大会の目標、チームの特徴

目標は 2 大会連続となるメダル獲得。

### (2) 日本チームの特徴、有力選手

平均身長 155 cm（主力 4 選手の平均身長は 153 cm）と小柄な体格ながら、その体から繰り上げられるパワフルかつ柔軟なスウィープ力は圧巻で、世界の強豪チームにも引けをとらない。コミュニケーション力にも長けていて、温度・湿度で刻々と変化する難しいアイスの情報もチームですぐに共有し、精度の高いショットを生み出している。難解なゲームシーンに直面した際には、チーム一丸となり納得するまでとことん話し合いをして解決することで、ポジティブな試合運びの展開へと繋げている。

チームの司令塔、スキップ藤澤五月（30）の作戦構成面での成長も著しい。もともと攻撃的で大胆な作戦を好む傾向があり、前に行き過ぎることからミスを誘発するプレーも見ら

れがちであったが、近年ではその大事な局面において守備的な我慢のカーリングへ切り替える術を身につけるなど、作戦の引き出しの幅を広げている。2018 平昌冬季オリンピックでの銅メダル獲得以降、カナダで開催されるグランドスラム大会等の世界トップレベルのチームが集う様々な大会へ参戦する機会が増え、それらの大会で得た経験の成果と思われる。

### (3) 他国の有力選手 等

今大会出場の 10 か国は世界カーリング連盟が発表している世界ランキングの上位 10 か国に該当する。参加チームに着目しその実力を順に並べると、カナダ、スウェーデン、スイスのトップ 3 チームを先頭に、その 2 番手としてイギリス、残りのアメリカ、デンマーク、ロシア、中国、韓国、そして日本の 7 チームが横並びに位置する。いずれにせよどの国・チームがメダルを獲得しても不思議ではない。

カナダからは、2014 ソチ冬季オリンピックにおいて予選から無敗で金メダルを獲得したジョーンズのチームが参戦。世界カーリング選手権にも匹敵するレベルのチームが顔を揃えるとも言われているカナダ国内の代表選考会を制したチームだけに、その強さは計り知れない。

スウェーデンからは 2018 平昌冬季オリンピック優勝のハッセルボリのチームが参加。スキルフルでダイナミックなプレースタイルが特徴で、ガードストーンを利用したランバックが特に圧巻(投げた石をガードストーンに当てて、その当てられたガードストーンを用いてハウスの中にある相手の石を押し出すプレー)。オリンピック 2 連覇の偉業も射程圏内であろう。

スイスからは、昨年度世界選手権覇者のトゥリンゾーニのチームが出場。世界選手権で 8 度の優勝を数えるスイスではあるが、オリンピックでの金メダルは未獲得。悲願の同メダル獲得のために本気で挑んでくることは間違いない。

イギリスは 2018 平昌冬季オリンピックで日本と銅メダル獲得を争ったミュアヘッドのチームが参加する。ミュアヘッドは昨年度の世界選手権で北京冬季オリンピック出場枠獲得を逃したものの、その後国内選考で再度代表チームの座を掴み、昨年 11 月のユーロ選手権で優勝、12 月のオリンピック最終予選では予選 1 位通過でオリンピック出場を決めた。オリンピック最終予選で日本が敗戦を喫した 2 チームのうちの 1 つであり、メダル獲得をかけてプレーオフで再戦する可能性も高い。

## 3. その他特筆すべき事項

### (1) 話題性のある選手(親子出場、兄弟姉妹出場、親戚関係出場歴、連続出場・最多出場等)

- ・サードの吉田知那美(30)とリードの吉田夕梨花(28)は姉妹。姉の知那美は 3 回目のオリンピック出場(2014 ソチ、2018 平昌)、妹の夕梨花は 2 回目のオリンピック出場(2018 平昌)。
- ・スキップの藤澤五月(30)とセカンドの鈴木夕湖(30)は、はとこ同士。ともに 2 回目のオリンピック出場(2018 平昌)
- ・リザーブの石崎琴美(43)は 3 回目のオリンピック出場(2002 ソルトレイクシティ、2010 バンクーバー)

### (2) 今大会出場までのエピソード

(公社)日本カーリング協会の定めた 2022 北京冬季オリンピック出場日本代表チームの

選定方法は、2020年と2021年の日本選手権を2連覇したチームもしくは異なるチームがそれぞれ優勝をした場合は後日開催される日本代表決定戦を制したチームであった。

今回カーリング女子日本代表となったチーム（ロコソラーレ）は2020年日本選手権の覇者であり、連覇をかけた2021年日本選手権は準優勝（優勝は北海道銀行）であった。そのため昨年9月に稚内で開催された日本代表決定戦へ挑んだ。決定戦はベストオブファイブ（5試合中先に3勝したチームが勝利）の試合形式で行われ、チームは2連敗からの3連勝という勝負強さを見せ、日本代表の座を射止めた。

2021年5月にカナダで行われた世界選手権では日本は北京冬季オリンピックへの出場権を獲得できなかったため、日本は同年12月にオランダで行われたオリンピック出場最終予選へ参戦（日本代表決定戦を制したロコソラーレが参戦）。参加チーム総当たりの予選と決定戦の結果で決まる上位3チームが出場権を獲得する同大会において、日本代表は2022年北京冬季オリンピックへのチケットをついにつかんだ。

### (3) 国際大会での日本チームの成績

今大会出場のメンバーで参加した2018平昌冬季オリンピック以降の公式国際大会の成績は以下の通りである。

- ・2018 パシフィックアジアカーリング選手権 準優勝
- ・2018 カーリングワールドカップ セカンドレグ 優勝
- ・2021 オリンピック最終予選 2位

### (4) 参考となる専門誌、新聞記事、ウェブサイトの紹介等

公益社団法人日本カーリング協会 公式ホームページ

<http://www.curling.or.jp/>

まんがでわかるカーリングの見方！！市川美余がとっておきの話をデリバリー。（小学館）

<https://www.shogakukan.co.jp/books/09388810>

## 4. 大会期間中の問い合わせ先

公益社団法人日本カーリング協会 広報担当

[media@curling.or.jp](mailto:media@curling.or.jp)